

ブログ

文化政策学科 1年
T.Y.

7月9日、地域連携演習で天竜の木に関する場所を見学させていただいた。

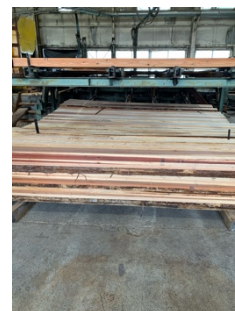
最初に、天竜の山へ行かせていただいた。そこで林業をされている方が、今植えている木が市場に出回るのは後の世代だと仰っていた。反対に、今出荷している木は先代が植えたものらしい。つまり、林業は後継者がいる前提がないと成り立たない産業といえる。一次産業における後継者不足はよく知られているが、この言葉を聞いてその本質や深刻さに気付かされた。その後継者不足を解消する方法を考えることも、今回のプロジェクトの役割の一つだといえそう。



丸太市場の見学では、木の選別や卸売現場などを見学させていただいた。フローリングには木目がない木材が使われていることがある。木の枝を切り落としながら育てると木目のない木になるそう。よって、木目がない木は長い間手入れのされてきた木だといえる。しかし、木目がある木でもそれを生かした製品を作ることができる。また、1本の木のうちの約4割しか製品にならないそう。残りの6割の部分を有効活用できないか、これから考えていきたい。



浜松木材では、木の加工を見学させていただいた。特に、水分量によって丸太の重さが全く違うことに驚いた。加工の技術の高さを知ることができた。また、消費者側にできることは、木を購入する際にFSC認証の木材を選ぶことだと浜松木材の方が仰っていた。これからプロジェクトを進めていくにあたり、このようなことも来てくださる方々に伝えていきたい。



最後に、渥美さんの家へお邪魔した。ここではその日の振り返りをした。今回の見学の前と後では木に対する考え方が全く違うことを実感した。渥美さんの家は、木の魅力を最大限に生かしたつくりがされている。木が製品として家に利用されるまでの長い道のりを感じ取ることができた。

以上より、7月9日のまとめを述べた。木が生えているところから選別、加工、そして家に使用されるまでの一連の過程を知ることで、私たちが普段使っている木の製品などは、多くの方の長年の努力の積み重ねによって作られたものだと知ることができた。今回学んだことをプロジェクトで最大限に生かしていきたい。